

炎症



おむつかぶれ

重要ポイント

- おむつ部分はできるだけ乾いた状態を保つ
- おむつはこまめに替える
- 少し赤い程度ならおむつをさせないでよくと治る場合が多い
- おむつをさせない場合は尿や便の上に寝かさないよう気を付ける
- おむつを定期的に替えられない場合はビニール製のおむつカバーは使わない
- おむつ部分は温水や **sorbolene** もしくは **aqueous** クリームなどの保湿剤できれいにすることができる
- おむつを取り替えた後、撥水性の保湿剤（亜鉛／ひまし油クリームやワセリンなど）を塗って保護することもできる
- 皮膚を石鹼で洗わない
- お風呂には無香料のバスオイルを少量入れる
- おむつのすすぎには消毒剤その他の薬品を使わないようにする

症状

おむつ部分の皮膚の炎症を総称して「おむつかぶれ」と言います。おむつをしている子はほとんど全員が一度は経験します。少し赤くなる程度から、膿が出たりやかさぶたができるほどの重症まで、程度は様々です。原因は様々ですが、一番の要因は名前の通りおむつをしていることです。

発症箇所

言うまでもなく、おむつかぶれはおむつをしている部分、すなわち下腹部、お尻、太ももにできます。おむつが肌に直接触れる部分以外にはできません。

おむつをしていない部分にまでかぶれが広がる場合があります。これは通常、赤ちゃんがおむつかぶれになりやすい別の原因、たとえば湿疹が存在することを示しています。

原因

主たる原因は濡れた、あるいは汚れたおむつが皮膚に直接触れることです。おむつと肌がこすれ合うことと水分とが皮膚を刺激し、炎症をおこします。赤ちゃんがかぶれやすい肌（たとえば湿疹になりやすい体質）の場合には特に起こりやすくなります。

いったん皮膚に炎症が起きると、そこに細菌やカンジダが感染して二次炎症が起きることがあります。石鹼やアルコール基剤のお尻拭きなどの刺激物を使用することで治りにくくなったり悪化したりする場合があります。濡れた

Japanese – Nappy Rash

おむつを長くしておけばしておくほど、おむつかぶれになりやすいです。

治療法

おむつが肌に直接あたらなければ、おむつかぶれは起きません。できるだけおむつをしないようにすれば症状を軽減できます。もっとも、赤ちゃんを常におむつ無しで置いておくことは実際には困難です。そこで、おむつはできるだけひんぱんに取り替えるようにしましょう。もしおむつを外して置いておく時は、尿や便の上に放置してはいけません。おむつを定期的に替えられない場合はビニール製のおむつカバーは使用すべきではありません。

品質の良い吸収性の高いおむつが理想的です。布おむつの場合は十分に洗ってすすぎます。消毒剤や生物学的洗剤などの薬品を使用する場合は、残らないよう充分すすぎます。おむつの洗濯にはソフナーは使ってはいけません。

おむつを替える際に、温水や保湿クリーム（*sorbolene* や *aqueous* クリーム等）で皮膚をきれいにすることができます。石鹼は炎症を刺激したり、まだかぶれていない場合でも皮膚の保護膜を取り去って炎症をおこしやすい状態にすることがあるので、使用は避けましょう。きれいにした後には、皮膚はこすらずにやさしく叩くようにして水気をふき取ります。それから亜鉛／ひまし油クリームやワセリンなどの撥水性の保湿剤を塗ることもできます。

軽症のおむつかぶれが簡単な治療で治らなかつたり、悪化したりする場合には、医師の診察を受けて、コルチゾンクリームや抗カンジダ治療の必要があるかどうか判断する必要があるかもしれません。また、もともと湿疹になりやすい体質があってそれがおむつかぶれを引き起こしている可能性を医師が検査することもあります。湿疹があればそれを治療し、長期的に再発を防ぐ手段を講じる必要があります。

より詳しい情報の入手先：

母子健康看護師

薬剤師

かかりつけの医師

皮膚科専門医